

第5回 精華町総合計画審議会 議事摘録

■日時・場所

- ・令和4年9月8日（木）15:00～17:20
- ・精華町役場 6階 審議会室

■内容

1. 開会

2. 議事

(1) 次期総合計画基本構想（素案）将来像について

事務局 資料1について説明

川勝会長 基本構想の8ページの将来像については、前回の審議会を踏まえて、5案の中から1案を選定した。キャッチフレーズにすべての想いを込めるのは難しいため、説明文により補う形で意見を反映している。

基本構想については、前回の審議会において、全体としておおむね了承いただいているが、質問や意見等があればお願いしたい。

——（特になし）——

川勝会長 特に異議もないようなので、この案をもって了承することとしたい。

——（委員一同了承）——

(2) 次期総合計画基本計画（素案）について

事務局 資料2～資料6について説明

川勝会長 基本計画（素案）の構成や施策体系に対する観点、また、各委員の関心に基づいて各施策の内容に対する意見などをいただきたい。

上杉委員 これまでの策定プロセスを踏まえた上で作成された計画であると感じた。次期総合計画で新たに追加した施策の1つとして、第1章第1節の柱の2に、「文化科学技術の振興」がある。これは、子どもたちに文化や科学に触れる機会を提供することを意識した施策であると思うが、科学技術の振興であると、学研企業や研究組織との連携に関する施策のように感じる。子どもや地域住民に対する施策であることが分かりやすい名称に変更してはどうか。

事務局 文化・芸術の振興は、これまでからも取り組んできている。一方、科学・学術の振興としては、主な取り組みは「科学のまちの子どもたちプロジェクト」

ぐらいであり、もう少し踏み込んで取り組みたい。

先行する、つくば市では、中小企業を対象とする研究開発助成などにも取り組んでおり、いずれはそのような施策にも取り組みたいと考えている。そのような意図から、施策の柱として「文化科学技術」を掲げるとともに、内容についても検討していきたいと考えている。

学研都市を受け入れたまちとして、「文化科学技術」は取り組むべき領域であり、学研都市ならではの文化芸術振興につながるイベントや、科学技術振興につながるパイロットモデル事業などを誘致することで、子どもたちに様々な経験の機会を提供していきたいと考えている。そのための施策の柱である。

上杉委員 説明の内容では、同じ節の柱の1「学研都市の推進」の内容との類似性があるように感じるため、もう少し内容の棲み分けが必要ではないか。

事務局 現在の本町において、「学研都市の推進」は建設推進が主である。例えば、学研狛田東地区の開発の進捗に合わせた関連公共公益施設の整備や京阪奈新線の誘致などに取り組んでいるが、これらはハード整備、いわゆる都市建設である。「学研都市の推進」には、もう1つ都市運営の推進の面がある。いずれは、主たる内容はハード面の都市建設からソフト面の都市運営に移っていく。

一方で、「文化科学技術の振興」については、学研都市として特徴的な部分を抜き出して、施策として柱立てたものである。

川勝会長 上杉委員の意見は、「文化科学技術の振興」が子どもたちに文化や科学に触れる機会を積極的に提供していく内容であれば、この名称では内容が埋没するため、名称を工夫した方が良いというものである。文字通り、文化科学技術の振興に注力する内容であれば、この名称で良いと思う。整理した上で検討していただきたい。

河合委員 基本計画の1ページの施策体系を見ると、基本理念から将来像を導き出し、そこから基本計画の各施策につながる形になっている。基本理念や将来像を基本計画に落とし込む際の考え方について、各章の施策に入る前段に挿入すると理解しやすくなる。また、まちの将来像を実現するために、10年間で重点的に取り組む施策や新しく取り組む施策、リーディングプロジェクトを表記する方法もある。

第1章第1節「けいはんな学研都市」の課題の記述で、人と人の交流・連携を盛んにすることで、新産業創出や文化創造を促したり、子ども向け科学体験の機会提供に取り組む、と書かれている。課題で出たキーワードを踏まえて、それに対する目標像や取り組みを記述すれば、より分かりやすくなると思う。また、「けいはんな学研都市」の課題には、人と人の交流・連携というキーワードがあるので、それを測ることができるような指標があれば、施策との関連性が分かりやすい。

事務局

総合計画での重点的な取り組みやリーディングプロジェクトは、学研都市の計画変更を進めていた第3次総合計画の時に、新祝園駅を玄関口として急行停車化を目指すことなどをリーディングプロジェクトに位置付けて取り組んでいたが、第4次や第5次総合計画では取り組んでいない。ご指摘のように、今回の総合計画において、重点的に取り組むべき施策などの視点は必要であると思うので、それに該当する施策を抽出して考えてみたい。ただし、基本的には次期総合計画においてリーディングプロジェクトなどは考えていない。

「けいはんな学研都市」の施策の柱の目標像や取り組みの記述については、ご指摘の内容も踏まえて、もう一度検討したい。

指標について、今回の基本計画では、各施策の進捗を適切に測るため、できるだけアウトカム指標を設定するようにしているが、すべての施策に適切なアウトカム指標を設定することが難しいのが実情である。

ご指摘にある、人と人の交流・連携を盛を測る指標としては、立地企業と地域住民とのつながりとして、「研究開発型産業施設等地元雇用者数」を設定している。また、町と直接的なつながりを表す定住人口や交流人口だけでなく、関係人口を表す指標として「SNS 総フォロワー数」を設定している。

現在の素案では、行政評価に使用している指標も含めた全ての指標を掲載しているが、最終的な基本計画には、各節に3個程度の指標を厳選して掲載し、行政評価等で使用する他の指標は、資料編に掲載することで考えている。指標の精査と併せて、適切な指標の設定については引き続き検討する。

並河委員

資料5の議会提言書の対応表や資料6のせいかカフェラボ提言書の対応表の対応区分にある「中長期的な課題となる事項」の中長期的とは、どの程度の期間を指しているのか。

事務局

資料6、せいかカフェ・ラボ提言書の対応区分で説明すると、1は計画に盛り込んでいる内容、2の中長期的課題は、次期総合計画の計画期間中では難しい10年超の課題、3は施策の方向性としては合致しているが、内容が具体的過ぎるので基本計画には掲載せず、より具体的な実施計画策定の際に参考にするという考え方である。

並河委員

せいかカフェ・ラボの提言のうち、川西小学校区の提言は2の区分のみになっている。提言内容が10年間では難しい内容であることは理解するが、具体的な施策の参考として受け止めてはできないか。

基本計画の第1章第2節の柱の2「商工・サービス業」の内容について、同じ「産業」の節にある農業や観光に比べて内容が弱いと感じる。駅周辺の商業施設開発などの内容を盛り込むことはできないのか。

事務局

川西小学校区の提案内容は、町の方向性と合致しているが、壮大な内容のために早期実施が難しく、対応区分では中長期的な対応となった。ただ、想いや

熱量が伝わってくる発表であったため、考え方の欄の記述をそれに見合うような内容に見直したい。

「商工・サービス業」の記述内容については、ご指摘の内容を基本計画の記述に盛り込むことは難しいが、記述内容は再度検討したい。

古海委員

総合計画は10年後を見据えて策定しているが、この間も少子高齢化で子どもが減少し続けている。第2章第2節「児童福祉」において、関連計画として昭和43年の「こどもを守るまち」宣言が挙げられており、精華町ではその精神に基づいて児童福祉施策が展開され、子育て環境や支援の充実が図られてきた。

この流れを汲んで、少子高齢化の時代にあっても、精華町では子どもを安心して産み育てることができるというような、夢や期待が持てる内容を「児童福祉」の記述の中に盛り込むことはできないか。

7ページの指標に、精華町に住み続けたい中学生の割合があり、17.2%である。高校や大学に行くと外に目が向くと思うが、中学生までは我が町に住み続けたいと考える割合が多いと置いていたため、非常に低いと感じた。

事務局

「こどもを守るまち」宣言と児童福祉の関係性は、第2章の現況の部分で少し触れている。この宣言の精神に基づいて、障害児保育や小中学校の学級支援員の配置など子育て環境の整備に努めてきた。そのような経過から考えると、将来像の表現は少し弱いように感じるので、再度検討したい。

精華町に住み続けたい中学生の割合の低さは衝撃を受けた。一般論として、小学生の定住意向は高く、中学生になって思春期や自立心が芽生えるにつれて下がる傾向にあるが、今回の結果は非常に低いと感じている。調査方法や精度なども含めて検証する必要があると考えている。一方で、これをどう高めていくかは課題として認識している。

曾束委員

第1章第2節「産業」の柱の1「農業」について、10年後の農業者はかなり減少すると想定できる。取り組みには、農業者の経営安定を支援するとある。指標に農家戸数を設定し、現状と10年後の想定を示した上で、農家戸数の減少を食い止める具体的な支援策を検討し、取り組む必要がある。

事務局

「農業」の課題として、担い手の不足や高齢化は認識している。農業者への支援は、地域ごとに計画を作成して対応していく方針である。指標の設定も含めて、ご意見については参考にさせていただく。

森本委員

SDGsが各項目に記載されているが、SDGsの説明等は掲載されるのか。また、精華町としてSDGsで宣言している内容はあるのか。

事務局

基本計画の見方の説明を掲載する予定であり、そこにSDGsの説明についても掲載する予定である。SDGsには、17のゴールとそれに紐づいた169のターゲット

トがある。掲載するのはゴールだけであるが、具体的にどのターゲットに該当するという裏付けを持った上で掲載する予定であり、最終的な確認作業を行っているところである。精華町としてSDGsに関する宣言はしていない。

森本委員

総合計画の冊子にSDGsが掲載されることは、読んだ住民にとってもSDGsを知る機会になる。SDGsは行政や企業だけが取り組むものではなく、一人ひとりが意識し、取り組むものであると思うので、良い機会になると思う。

第2章第4節「防災・防犯・交通安全」について、柱の順番を変更しているが、意図があるのであれば教えていただきたい。

事務局

本町の防災面では、特に浸水対策におけるハード面での規模が大きな事業が多い。木津川へ内水を排水するためのポンプ増設や雨水路の整備などに取り組んでおり、投資額も非常に大きい。そのようなハード面での整備を「浸水対策」として柱の1つ目に掲載し、それ以外の防災対策について「地域防災・消防」として柱の2つ目にまとめた。一般的には、柱の順番が早い方が施策としての優先順位も高いと考えられるが、ここでは優先順位ではなく、単純にハード整備の方が財政投入が大きい「浸水対策」を1つ目に挙げている。

青井委員

健康に関する内容について、基本構想の基本理念の1つとして健康増進に関連する内容が掲げられ、基本計画でも第2章第1節「健康・医療」が位置付けられている。柱の2「地域医療」や柱の3「医療・保健」は、病気になった時に医療を受けることや保険制度を利用できるとの内容だが、その前段として、病気の予防につながる柱の1「健康づくり」が重要である。

健康づくりには、食と運動の2点が重要である、食育の推進の記述はあるが、身体活動や運動に関する記述がない。第3章第2節「生涯学習」の柱の3に「スポーツ活動」があるが、楽しみや生涯学習の観点での内容であり、健康づくりとは少し違うように思う。健康づくりのための身体活動・運動、また、特定保健指導などがあって医療費削減につながり、そこに食も関わってくると思う。健康づくりのための運動という視点での記述を追記する必要がある。

事務局

本町では、健康づくりの活動として「せいか365活動」に取り組んでおり、活動の趣旨は、運動や食生活により健康づくりを目指すというものである。この「せいか365活動」に身体活動・運動が含まれており、ウォーキングや体操などを中心に組み込んでいて、第2章の現況や第1節「健康・医療」の課題、柱の1「健康づくり」の部分に記述している。「せいか365活動」が認知されている前提での記述となっており、説明が不足していると感じるので、注釈を入れるなどして補足する。

寺本委員

中学生の定住意向に関連して、文化学術研究都市として、企業と地元の方の交流にどうやって取り組むべきか考えている。学研都市、精華町に立地して10

数年経つが、この間、毎年、地元の中学校から4～6名の生徒を職場体験学習として受け入れている。我が社は、コピー機の部品を生産しているが、コピーの仕組みや、それに関連する実験などの授業をしている。学研都市には様々な企業が集積しているので、行政で企業の情報を収集し、それを基に学校で生徒に紹介した上で、希望する企業へ職場体験に行く形にしてはどうか。そのような取り組みを実施することで、町内企業に興味を持ち、記憶に残る体験をすることで、精華町に住み続けたいと思うことにもつながる。

総合計画は計画期間が10年間とのことであるが、世の中の動きや時間のサイクルは非常に早くなってきている。時代に合わせて柔軟に対応するため、5年での見直しなども考える必要がある。

杉下委員

基本構想の将来像に「人がつながり夢を叶える学研都市精華町」とあるが、人や企業、団体などのつながりを作っていくのは難しい課題である。我々スポーツ協会では、スポーツを通してつながりを作ることを目指している。

先日、中学校の部活動の地域移行に関する会議があった。現状として、専門的に部活動に取り組みたい生徒がいる一方、学校側の体制が十分でないことや教師の働き方改革を進める必要があるなどの課題が挙がっていた。その中で、地域や民間に協力をお願いし、部活動を移行していこうというものである。

私も精華町で中学校の部活動、特に運動系の部活動を盛んにしたいと考えており、学校の先生も交えて議論している。また、近隣自治体でも同様の課題を抱えていることから、一緒に考えていくことが大切だと感じた。

スポーツ協会の取り組みの中で、人が集まりつながる最大の行事は町民体育大会であったが、45回目を最後に終了した。ピークの2012年には40余りの自治会のうち37の参加があったが次第に減少し、最後は23自治会の参加であった。スポーツ協会の各事業に取り組む上では、地域とのつながりが大切で、現在の自治会の状況を危惧している。各自治会の状況を把握した上で、地域のつながりを取り戻すための対策が必要である。

せいか365活動の話があったが、宣伝不足と感じている。28ページに「せいか365プロジェクト参画者数」の指標があるが、101名は少ないように思う。

香山委員

研究機関の関心事としては人材確保がある。人材確保の要素を考えた時に、学生からシニアまでの地元の方との交流、事業や研究内容のPR、住環境、交通利便性などがあると思う。その他の要素として、対外的に精華町をアピールすることが必要と考えるが、該当する施策としては第1章第1節の柱の4「地域創生」と考えれば良いのか。

川勝会長

寺本委員から総合計画の計画期間などについて、香山委員から対外的なアピールに該当する施策について質問があった。事務局から回答をお願いしたい。

事務局

計画期間や途中での見直しについては、中間評価を5年目に実施し、必要に

応じて内容の見直しを行いたいと考えている。また、今回の住民ワークショップの参加者に、毎年、総合計画の進捗状況を一定評価いただくような仕組みづくりを考えていきたい。

せいかカフェ・ラボで情報発信が弱いという意見が多く、また、住民からも積極的に情報発信が必要との意見もあった。町の情報・魅力発信は、元々は第1章第1節の柱の1「学研都市の推進」に含まれていたが、地方創生の取り組みに伴って、「地域創生」の施策に移行した。この施策だけでは取り組みが限定的であり、町政全体を横断する情報発信の充実が必要と感じている。

石田委員 せいかカフェラボの参加者として、カフェ・ラボで出た意見や提案内容が、関係する施策ごとに掲載されていて嬉しい気持ちになった。他の参加者も同じ想いであると思う。

鷹羽委員 基本計画は分かりやすい言葉で書かれており、理解しやすかった。施策の柱ごとにSDGsとの関連性も記載されていて、時代に即した内容になっていると思う。せいかカフェ・ラボで取り組んだ提言内容が基本計画の施策ごとに掲載される形で反映されており、精華町のまちづくりに貢献できて嬉しく思う。

高橋朝子委員 基本計画では、まず課題があり、それに対する目標像と取り組みが分けて書かれていて理解しやすかった。各節の最後に、せいかカフェ・ラボの提案を掲載することで、参加された住民や団体の方の思いが分かって良い。

高橋信委員 京都府でも総合計画の見直しに取り組んでいる。子育て支援の分野では、4年前の計画策定時には待機児童の減少を目標としていたが、今では状況が変化し、保育の量ではなく質が重要との意見が多く出ている。精華町の基本計画の第2章第2節の柱の2「子育て環境」では、待機児童ゼロの堅持との記述があるが、この先10年間も待機児童数を目標の対象とされるのか。

第2章第4節では、節の名称は「防災・防犯・交通安全」の並びで記載されているが、柱の3では「交通安全・防犯」と順番が違う。また、課題に防犯に関する記述内容がない。柱の2「地域防災・消防」でも消防の記述内容がない。先ほど話に出ていたように、柱の1が主にハード対策、柱の2が主にソフト対策であれば、柱の名称の表現を変える方法もある。

竹内委員 高齢化で自治会の活動が弱体化してきている。新しい家が建って人口が拡大している地域もあるが、高齢者が多く子どもがほとんどいない地域もあり、活動に差が出ている。まちづくりに自治会はどのように貢献できるのかを考えた時、高齢化が進む自治会では自治会活動を維持するだけで精一杯で、対外的な活動に参加する余裕はない。自治会が精華町全体のまちづくりに参加することが難しくなっており、自治会長連合会の会長についても手がない状態である。高齢化して停滞する自治会活動を何を材料にして活性化していくか、皆さ

んと一緒に考えていきたい。

町民体育大会は自治会活性化の1つの材料であると思うが、子どもや若い世代向けの内容が中心になると、高齢者の参加は難しい。高齢者が参加しても面白い運動会であれば良いと思う。

岡井委員

農業者の高齢化や減少に関連して、10ページに学校給食への町内農産物の食料提供割合の指標が掲載されているが、現状は13%と低い。子どもが育つ中で、給食を毎日楽しみに食べており、食育はとても大切だと思う。総合計画の10年の中で、農業を活性化し、町内産の農産物を増やすことで、子どもたちの成長にもつながってくると思う。

北尾委員

せいか365活動に関連して、私自身、地元の北稲地区の公園で毎朝ラジオ体操をしている。数人から始まったが、今では15人ほどが集まっている。体操は健康寿命を伸ばすのに効果があり、朝の挨拶も兼ねてコミュニケーションをとることもできる。せいか365活動の健康ポイントの取り組みもあるので、活動が広く認知され、様々な地域でラジオ体操をする人が増えるとよいと思う。

上杉委員

議会からの提言の反映は重要であるが、住民からの提言であるせいかカフェ・ラボの内容が反映されていることは大切なことである。

基本構想の18ページ「構想の実現に向けて」で、カフェ・ラボの住民参画の取り組みを継続し、計画の進捗管理につなげていくことが記載されている。一方で、基本計画にはこの内容に関する記述がない。内容としては、第4章の住民協働のまちづくりに関連し、第1節「住民協働・コミュニティ」に柱を追加する、第2節「行財政運営・行政サービス」の柱の1「行政経営」に記述を追加するなどの方法はあると思うが、カフェ・ラボの取り組みをつなげていく内容が基本計画で受けとめられると良いと思う。

指標にも関連するが、指標はあくまで行政が客観的に自己評価するためのものであり、カフェ・ラボの取り組みを通じて町民の満足度や町政全体への評価を測り、それを町政の運営につなげていくことが大切である。

川勝会長

上杉委員の意見は計画の核となるものであり、計画の策定プロセス、計画を運用するプロセスの双方で重要になる。

事務局

第4章第2節「行財政運営・行政サービス」の柱の1「行政経営」の内容に、カフェ・ラボの取り組みを受けとめる内容の追記を検討したい。カフェ・ラボの取り組みが行政全体に影響を与え、住民主体のまちづくりを進めていくような表現となるよう検討する。

川勝会長

住民の意見が集約されたカフェ・ラボの提言書と、議会からの提言書があり、それぞれが基本計画に盛り込まれていることを明示されている点が良いと

思う。私からも何点か意見を述べたい。

まず、指標の設定は非常に難しいが、根拠が必要である。当該施策の到達度を測るための指標として設定した根拠、また、その数値目標を設定した根拠を説明できなければならない。計画の進捗管理は、指標とその数値目標が拠り所であり、根拠が十分でないとは評価できない。京都府立大学としても協力を考えているので、計画の進捗管理をする中で、見直しなども行いながら進めていけば良いと思う。

次に、各分野に精華町のこだわりを示して欲しい。精華町としては、特にこうした点にこだわって目標を掲げたということが分かるが良い。この点も踏まえて、各部局で確認していただきたい。

最後に、河合委員の意見にあった、基本計画の前文や重点的な取り組みの記載について。重点的な取り組みについては、行政の場合は民主主義のプロセスの中で決められるべきものであり、最終的には議会を経て決めるものである。一方で、基本計画の前文については、住民の方が基本計画を見た時に、前文のようなメッセージが最初にあると各施策の内容に入っていくやすい。現状では、施策の羅列になってしまうので、基本計画策定にかかる思いや作り上げられてきたパッションなどの記述があると良いと思う。

各委員から意見等をいただいたが、その反映等については、私と事務局で相談して検討するので、一任していただきたい。その上で、基本計画（素案）の全体としては、この内容でおおむね了承することとしたい。

——（委員一同了承）——

4. その他

事務局

審議会での意見の反映とともに、表記揺れの確認や注釈などの追加、SDGs や指標、関連計画の精査など、最終校正を実施した後、次期総合計画（案）として各委員に送付する。

その内容をもって、10月3日（月）から11月4日（金）までの1か月間、パブリックコメントを実施予定である。

その後、第6回審議会においてパブリックコメントの実施結果を報告するとともに、次期総合計画の最終案について説明し、審議会の了承を得ることができれば、川勝会長から杉浦町長へ答申書として最終案を提出していただく。

この答申書を受けて、精華町議会定例会12月会議で議案として次期総合計画の内容を提案する予定である。

なお、第6回審議会は11月10日（木）午前10時から開催予定である。

5. 閉会